

10課

3月11日

神にお返しする



安息日午後 3月4日

暗唱聖句

またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。(黙示録 14 : 13、口語訳)

また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。」「霊」も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである。」(黙示録 14 : 13、新共同訳)

今週の聖句

ルカ 12 : 16 ~ 21、コヘレト 2 : 18 ~ 22、箴言 27 : 23 ~ 27、2 コリント 4 : 18、コヘレト 5 : 9 (口語訳は 5 : 10)、コロサイ 1 : 15 ~ 17

今週のテーマ

現役時代が終わりに近づくと、私たちの経済的な関心は、人生の終わりを見据えて資産をどう残すかに向けられます。現役世代から退職後への移行は、大きな苦痛を覚える衝撃的な経験になりえます。経済的な面で、移行するための最善な方法は何でしょうか。

人は歳を重ねるにつれて、当然のように将来について心配するようになります。最も一般的な心配は、(家族に世話になる前の) 早すぎる死、(資金や貯蓄を使い果たす) 長すぎる生、(蓄えが一度に消えてしまうような) 突然の大病、そして、(あなたはだれですか、となる) 精神的、身体的な障害などがあります。

これらの心配についてエレン・G・ホワイトは、次のように述べています。「これらの恐れは皆、サタンから出ています。……もし彼らが、神が彼らに望まれる立場を取るならば、彼らの終わりの日々は、彼らにとって最も素晴らしい幸せなものとなりえます。……彼らは心配事や重荷を捨て、できる限り幸せな時を過ごし、天に向かって円熟しなければなりません」(『教会への証』第1巻分冊 2・217ページ)。

今週、私たちは、人生の終わりの時についての神の勧告を学びます。私たちは、何をすべきで、何を避けるべきで、どのような原則に従うべきなのでしょう。

問1 ルカ12:16~21を読んでください。ここで、私たちに関係するメッセージは何でしょうか。主はこの愚かな男にどんな強い譴責けんせきをされましたか。このたとえ話から、所有物に対する私たちの態度について何を学ぶべきでしょうか。

このたとえ話のメッセージはもっと広い意味がありますが、イエスが「退職後にはしてはならないこと」について語った物語であるとも言えます。それゆえに、もし退職し、蓄えた財産を自分自身のために使おうとしているならば、この話を注意して、心に留めておくべきです。問題は、一生懸命に働くことや財産を得ることではなく、特に年を重ねるにつれて、そしておそらく、財産を得るにつれて生じます。問題は、財産に対する態度です。「さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ」(ルカ12:19、口語訳)という言葉は、この問題の本質を表しています。

「この人の目標は、減んで行く獣の目標より高くはなかった。彼は、神も天国も未来の生命もないかのように、自分の持つものはすべて自分の物で、神や人にはなんの負うところもないかのように生活していた」(『希望への光』1284ページ、『キリストの実物教訓』232ページ)。

もし、人生の最後の時期に、自分のことだけを考え、他者の必要や神の目的を無視するならば、私たちはこの愚かな金持ちと同じになります。イエスのたとえ話は、金持ちが怠け者であるとか、不誠実であるかは、述べていません。問題は、神から預けられたものを、どのように用いたかです。私たちは、自分が死ぬ日がいつか分からないのですから、利己的な人生を追い求めるのではなく、神の御心を行うことによって、常に死の備えをしなければなりません。

聖書に示されている一般的な事実、人は可能な限り働き、生産性を維持することです。事実、ダニエル書や黙示録の著者たちが、その働きを完成したとき、80代であったと言われています。平均的な寿命が、およそ50歳であった時代です。エレン・G・ホワイトは、70歳を過ぎてから『各時代の希望』など、最もよく知られ、愛されている著作を出版しました。年を重ねても、健康である限り、生産的な活動や、可能な限り良いことをすることをやめるべきではありません。

イエスは、主の再臨を待ち望む者たちは、何もしないのではなく、働き続けるように勧告されました(マタ24:44~46)。

何歳になっても、どれほどの財産を持っていようと、この男のように罾わなに陥らないためにはどうしたらよいのでしょうか。「私は何のために生きているのか」と自問してみましょう。

ある人が、著名な伝道者ビリー・グラハムに、年を重ねた今（グラハムは当時60代）、人生で最も驚いたことは何かと尋ねたことがありました。グラハムの答えは、何だったでしょう。それは、「人生の短さ」でした。確かに、人生はあっという間に過ぎ去ります。

問2 次の聖句は人の命について何を教えていますか。詩編 49：18(口語訳 49：17)、1テモテ 6：6、7、詩編 39：12(口語訳 39：11)、ヤコブ 4：14、コヘレト 2：18～22

人生はあっという間に過ぎるだけでなく、死ぬときには、何一つ、少なくとも蓄えた物質的な物は何も持って行くことができません（品性については別の話です）。「死ぬときは、何ひとつ携えて行くことができません」（詩編 49：18〔口語訳 49：17〕）。このことは、人は、他のだれかのために、持っている物を遺すことを意味します。だれが受け取るかは、事前にどのような計画が立てられているかによります。

もちろん、だれもが財産を持っているわけではありませんが、多くの人々は、特に長年働いていれば、ある程度の財産を蓄えています。最終的に、自分が死んだ後、その財産がどうなるかは、人々が考慮すべき重要な問題です。

人生の終わりに財産を持つ者にとって、財産の多少にかかわらず、遺産計画は、神が祝福されたものを注意深く管理する、最後のスチュワードシップの行為になりえます。遺言や信託で作成した遺産計画がない場合、〔米国では〕州法や民法が適用される可能性があります（地域によって異なります）。遺言書なしで亡くなった場合、ほとんどの民事裁判では、あなたの資産が必要かどうか、有効に活用するかどうか、一部を与えたかどうかにかかわらず、あなたの資産は親族に譲渡されるだけです。教会は一銭も受け取りません。あなたがそのことを望むなら構いませんが、もしそうでないなら、事前に計画を立てる必要があります。

最も簡単な言い方をすれば、すべてのものは神のものであります（詩編 24：1）、聖書的な観点から、神が私たちに託されたものを管理し終えたら、愛する者たちの必要を満たした上で、残った物は正当な所有者である神にお返しすべきであると結論づけるのは、論理的なことであると言えるでしょう。

私たちが知っているように、死はいつ訪れるかわかりません。もし死があなたに今日訪れたなら、あなたの愛する者たちはどうなるでしょうか。あなたの財産はどうなりますか。あなたの望むように分配されるでしょうか。

旧約聖書の時代、イスラエルの子らの多くは農業や牧畜に従事していました。そのため、神の約束された祝福のいくつかは、農業用語で表現されています。たとえば、箴言3：9、10では、もし私たちが神に金銭的に忠実であるなら、神は私たちの「倉に穀物を満たす」と言われています。今日、多くのクリスチャンは倉を持っていないでしょう。ですから、私たちが神の後に従い、聞き従うなら、神は私たちの仕事や事業を祝福してくださると理解することができます。

問3 箴言 27：23～27 を読んでください。「あなたの羊の様子をよく知っておけ」とは、現代に生きるクリスチャンにとって、どのように解釈すべきでしょうか。

聖書は、富める者が貧しいものを踏みつけることや、富に貪欲であることに對してどんなに警告していても、不正や他者から搾取しない限り、富や富を得るための努力を非難してはしません。実際、箴言は、自分自身と家族のために十分な財産を持つことができるように、経済的な課題に熱心に取り組むべきであることを示しています。「雌山羊の乳はあなたのパン、一家のパンとなり／あなたに仕える少女らを養う」（箴言27：27）。

今日、この聖句をどのように言い換えることができるでしょうか。「出納帳を見直して、状況を把握しなさい」、あるいは「貸借対照表を見て、負債資本比率を理解しなさい」ということになるでしょう。現役期間のうちに、時々、遺言書やその他の文書、現在の資産を見直して、必要に応じて書き直すことが適切なことでしょう。遺言や資産に関する書類は、突然の死や健康上の理由で、あなたの資産の行き先を決めることができなくなることを避けるために、遺産計画の早い段階で作成しておきます。自分の財産が自分のものでなくなる前に、あらかじめ計画しておくのです。

要するに、神が祝福してくださったものに対する良い管理は、生きている間だけでなく、死んだ後のことについても考慮することです。なぜなら、私たちが生きている間に主がおいでにならない限り、私たちはいつか死に、多少にかかわらず物質的な財産は後に残されるからです。ですから、私たちは今、自分が受けた恵みを、他の人たちへの祝福と神の働きを前進させるために備えることが大切です。

「富はいつまでも続くものではない」（箴言 27：24、口語訳）ことを覚えることは、なぜ大切なのでしょう。

問4 金銭をどのように扱うべきかについて、次の聖句はどんな原則を示していますか。

1 テモテ 6 : 17

2 コリント 4 : 18

箴言 30 : 8

コヘレト 5 : 9 (口語訳 5 : 10)

金銭は、人間を強力に支配し、多くの人々を滅びに導いてきました。金銭のために恐ろしいことをした人の話を、聞いたことがない人はいないでしょう。

しかし、それは避けられないことではありません。神の力によって、私たちは、祝福となるはずのもの（物質的財産）を呪いに変えようとする敵の企てに、打ち勝つことができます。

死に備えて良き管理者となるにあたって、人が直面する危険の一つは、「死んだら、すべてを手放すことになるのだから」と考えて、生きている間、資産をため込む行為を正当化する誘惑です。今すぐ、すべての資産を使い果たすよりはましですが（ある億万長者は、自分の葬儀の小切手が不渡りになったとき、良い生き方をしたことを確かめることができると言いましたが）、私たちは、もっとよく管理することができるし、そうすべきです。

「私は多くの者たちが、生きている間には神の目的のために与えることをせず、死の間際には慈善のために寄付するからと、自分の良心をなだめているのを見ました。彼らは、生きている間には、神への信仰と信頼を働かせず、神に何もささげません。しかしこの死の床の慈善は、キリストが彼に従う者たちに求めておられることではありません。それは生きている間の利己主義の言い訳にはならないのです。最後の瞬間まで自分の財産にしがみつく者たちは、それを神の目的でなく死に明け渡しています。損失は絶えず続き、銀行は倒産し、財産はありとあらゆる方法で消え失せます。あれこれしようとする多くの志は、彼らが事を遅らせたために、サタンが働いてそれらの財産が一銭も天の倉に入らないようにさせています。彼らの財産は神に返されることなく失われ、サタンはそれを見て小躍りして喜びます」（『教会への証』第5巻154ページ、英文）。

人間が罪を犯さなかったら、地上の生活はどのようになっていたかを想像するのは難しいことですが、一つ確かなことは、そこには、ため込み、貪欲、貧困といった有史以来人間の世界を苦しめてきたものはないだろうということです。私たちの所有意識、つまり、物を所有するために働くこと、もし正直に働いたなら、所有するのは当然なことであるという感覚は、墮落した世界の生き方の表れです。しかし、最後には、私たちがどれほど多くを持つか、持たないかにかかわりなく、私たちが常に覚えておかなければならない重要なことが一つあります。

問5 次の聖句すべてに共通する中心的な思想は何でしょうか。神が祝福してくださった物質的な資産を用いることに、その思想をどのように生かすべきですか。(詩編 24 : 1、ヘブ 3 : 4、詩編 50 : 10、創 14 : 19、コロ 1 : 15~17)

私たちは、神から託されたものの管財人であり、管理者です。究極的に神は、すべてを所有し、私たちに命、存在、そして何かを持つための力を与えてくださるお方です。ですから、神が与えてくださった人生を全うし、家族の世話を終えたなら、残りのものを神にお返しすることは理にかなっています。

「あなたは、神のみ業のためにささげることによって、自分自身のために天に宝を蓄えているのである。天に蓄えたものは、すべて災害や損失の危険がなく、永遠に持続する資産として増加する。……〔それは、〕天国における自分たちの通帳に記帳される」(『祝福に満ちた生活——スチュワードシップに関する勧告』386ページ)。

今、生きている間に寄付をすることには、多くの利点があります。そのいくつかを挙げてみましょう。

1. 寄付者は、新しい教会の建物、大学で学ぶ若者、資金提供をした伝道活動など、寄付の結果を見ることができる。
2. 最も必要とされているとき、宣教師が恩恵を受けることができる。
3. あなたの死後、家族や友人の間で争いが起きない。
4. 他者への寛大さと愛という家族の価値観の良い模範となる。
5. 相続税の影響を最小限に抑えることができる。
6. 寄付が希望する団体に行われることが保証される(裁判所や不満を持つ親族からの干渉を受けない)。
7. 寄付者の心が利己的から利他的に変わったことを示すことができる。
8. 天に宝を積むことになる。

エレン・G・ホワイトは、遺産の分配というこの重要なテーマについて、次のように書いています。「このこと〔遺産の分配〕について多くの者たちは、彼らの死期が近づくまで先延ばしにしようとしませんが、もし彼らが真にクリスチャンであるなら、彼らが〔健康という〕生涯の拠り所を持っているうちに〔これに〕取り掛かるでしょう。彼らは自分自身と財産とを神にささげるでしょう。そして、神の管理者として活動している間、彼らの責務を果たすことを本望と感じるでしょう。自分自身の遺言執行者になることによって、彼らはその責任を他の者に転嫁するのではなく、自分自身で神のご要求に応えるでしょう」（『教会への証』第4巻480ページ、英文）。

「自分自身の遺言執行者になる」とはどのような意味でしょうか。典型的な遺言では、遺言する人は、遺産を分配するための執行者を選任し、自分の死後、遺言の中に表記された自分の意思と調和して財産を分配することになっています。また、自分が執行者になることによって、生きている間に、自分で財産を分配することができます。そうすることで、あなたは、その結果を見届けることができ、神から託された賜物を適切に扱うことができる満足感を得られるでしょう。

クリスチャンにとって、キリストの再臨は「祝福された希望」です。私たちは皆、イエスが天の雲に乗っておいでになるのを見ることが、どれほど素晴らしいかを想像し、「よくやった」と言われることを待ち望んでいます。では、イエスがお戻りになられる前に、私たちが眠りにつくとしたらどうなるのでしょうか。もし、私たちがイエスの明らかにされた御心に従うなら、私たちの働きによって御業が前進し、また、遺産計画によって私たちの死後も御業が継続するのを知り、今、満足することができます。

話し合いのための質問

- ① 私たちは今、天に宝を積むことができますが、それはなぜ、救いを得ようとする、あるいは「買う」とすることと違うのでしょうか。
- ② 私たちは今持っているものを寛大に与えるべきですが、同時に賢明でもあるべきです。私たちはどれほどよく、これこれの出来事が、しかじかの日に起こってお金の価値がなくなるから、今すぐこの人の働きのためにお金を送ったほうがいい、というようなことを訴える人たちの話を聞くことでしょうか。このような策略と、神のために今すぐでもお金を用いる正当な方法を見分けることを、私たちはどのように学ぶことができるでしょうか。